

パブリックコメントの実施概要

案件名 小笠原村観光振興ビジョン（案）について

実施期間 令和5年2月13日（月）～令和5年3月14日（火） 30日間

(1) ご意見を提出していただいた方の人数および件数
5人 22件

(2) ご意見の概要と村の考え方

番号	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
1	喫煙所で喫煙しないマナーの悪い喫煙者が多い。喫煙所を示した喫煙所マップがあれば少しでも変わるのではないか。	本ビジョンでは、「誰もが楽しめる観光地を目指し、施設や看板の改修などハード整備にユニバーサルデザインの考え方を取り入れる」としており、いただいたご意見も参考にしながら進めてまいります。
2	満3歳児で入園出来る園が母島にはあるが、父島にないのが残念。せめて児童館や保育園による園庭開放等があれば助かる。悪天候にて行き場のなくなった子連れのお客の方も助かると思う。	貴重なご意見として参考にさせていただきます。
3	島民向けのははじま丸の値下げについて、例えば片道1000円で行けるのであれば、もっと母島にも行きたいと思う。	いただいたご意見は本ビジョンで取り組む内容の範囲外ですが、今後必要に応じて、各関係機関と協議してまいります。
4	物価高騰支援をしてほしい。例えば都営住宅で、上階の部屋は高湿度により部屋内の壁が尋常でない程結露し、大量のカビが生えて自費で消毒等の購入、内地休暇時はエアコンのドライをつけたまま等の対策をしているが、物価高等を考慮していただき、金銭面での支援が欲しい。	いただいたご意見は本ビジョンで取り組む内容の範囲外ですが、今後必要に応じて、各関係機関と協議してまいります。
5	島の特産物を島の中で製造販売するのを目的とした施設の開設。農産物や水産物を加工できる共同キッチンを作り、新たな土産物を作る環境を作る。 農産物、水産物の多くが内地に運ばれ消費されてしまっている。「小笠原」のブランド価値の安売りになってしまっており、もったいない状態である。観光で訪れる人たちは「小笠原ならではのもの」を求めており、それを形にするには島内で加工する場所を作り、その担い手を広く応募し、新たな商品の開発拠点をつくるのが急務と考えている。 島内では不動産の数も少なく、保健所の許可を得られるキッチンを借りること自体が困難である。	本ビジョン、基本方針2「観光サービスの品質の向上」で掲げておりますとおり、島の食材を加工することによって高付加価値化を目指した特産品の開発は重要と考えており、島内加工による加工食品の開発推進につきましては、いただいたご意見も参考に検討してまいります。
6	インバウンド対策として、スマホ対応の翻訳アプリの おすすめをQRコード等で一覧にしたチラシの作成。	本ビジョン、基本方針4「戦略的なマーケティングの実施」で掲げておりますとおり、インバウンドにつきましては、様々な視点から需要の可能性を検討し、受入方針・対応策の検討を深め、関係者間での共有を図ってまいります。また、受入に際しましては、いただいたご意見も参考にさせていただき、来島者とのコミュニケーション・おもてなし力の向上に努めてまいります。
7	パブリックコメントの実施期間が短すぎる。1ヶ月位実施してほしい。	「小笠原村パブリックコメント手続実施要綱」に基づき、令和4年2月13日から村のホームページのトップページに掲載するとともに、村役場産業観光課及び母島支所の窓口にて計画案の内容を閲覧できるようにしております。また、広く周知するという視点から、同日より村内掲示板でもお知らせしてまいりました。

(2) ご意見の概要と村の考え方

番号	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
8	<p>村長および推進体制の方々、島の情報収集をしないまま策定しているように感じられる。島の生活を支える各種産業の人材不足と、島民の高齢化と住居不足による若い世代の流出が、徐々に増えている現状を知っているのか。</p>	<p>本ビジョンの策定に際しましては、観光関連団体の意見だけではなく、第一次産業団体（農協および漁協）や、関係行政機関からお話を伺い、策定を進めてまいりました。次年度予定しております「アクションプラン」策定の際にも、いただいたご意見も参考に、情報収集に努め進めてまいります。</p>
9	<p>本ビジョンは、「島や島民」を見ているわけではなく、「観光客」にしか目を向けていないと感じる。島民の中には「自分たちのことではなく、観光のことばかりに目が向いている」と思っている方が多いことを知って欲しい。また、観光業の前に、先ず島民が住んで生活しているわけだから、島民の生活の問題点を解決することが優先である。島民を差し置いて、観光業は成り立たないと思う。その辺りを考慮していただきたい。</p>	<p>本ビジョン、基本方針5「推進体制の強化・担い手づくり」で掲げておりますとおり、村内における観光産業への理解促進を目指すに際し、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>
10	<p>農業者の高齢化と人材不足で、島の農産物が少しずつ減少しているにもかかわらず、「地産地消の推進」「経済循環の促進」「自給率の向上」と謳っているが、これは、島の現状把握と対策を協議してからにしていきたい。また、今現在も農業者を増やす協力体制はなく、農業を希望する方がいても、住居も農地もない。</p>	<p>農業従事者の確保に関しましては本ビジョンで取り組む内容の範囲外であります。今後必要に応じて、各関係機関と協議してまいります。</p>
11	<p>島の農産物をどの商店でも販売することや、島の農産物を販売するお店の店員が農産物の知識を持って、飲食店・宿泊施設の間に入って勧めること、また、使い方を伝えてくれると、農業者→商店→飲食店→宿泊施設が繋がることによって島の農産物も使用され、商店の利益にもなり、「地産地消の推進」「経済循環の促進」「自給率の向上」に結びつき、島民と共に「フードマイレージの削減」に協力できると思う。</p>	<p>「フードマイレージの削減」を目指すに際し、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>
12	<p>売れ残りの島の農産物がそのまま捨てられている現状もあるので、加工業者に安価で回す、飲食店や宿泊施設に配る、堆肥化する等で、ごみ問題削減につながるのではないかと。</p>	<p>宿泊・飲食業と第一次産業団体との連携につきましては、今後、意見交換を重ね、マッチングの仕組み等検討してまいります。</p>
13	<p>生ごみ等を回収して堆肥化している事業所に対する補助等、検討していただきたい。</p>	<p>いただいたご意見は本ビジョンで取り組む内容の範囲外ではありますが、今後必要に応じて、各関係機関と協議してまいります。</p>
14	<p>学校での調理実習等で島の農産物を使用することで、子供たちにも存在が伝わり、「地産地消の推進」になるのではないかと。</p>	<p>貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>
15	<p>農業者を増やす方法として、以下必要だと考える。 ①農業者用の住居、住宅費補助、建築補助 ②受け入れ農家も研修費補助等のサポート ③借りられる農地と農業用水の確保</p>	<p>農業従事者および農地等の確保に関しましては本ビジョンで取り組む内容の範囲外ではありますが、今後必要に応じて、各関係機関と協議してまいります。</p>
16	<p>基本方針1小笠原エコツーリズムの推進 (2)ガイドツアーの魅力向上、1)多様なガイドツアーの開発において、「第一次産業の団体などと連携体制を構築し、農業体験、漁業風景や島の生活文化にふれられるガイドツアーの開発を推進します」とあるが、何処で、誰がやるのかがわからないまま、案として計画されることに疑問を感じる。また、ガイドが敷地内に勝手に入って案内したり、島の農業に関しての知識や体験がないままツアーを計画されることに危険を感じる。先ずは企画者およびガイドが島の農産物を食べてみたり農業を体験をして、農業者との交流や情報交換をした上での検討が必要ではないかと。</p>	<p>本ビジョンの策定に際しましては、観光関連団体の意見だけではなく、第一次産業団体（農協および漁協）や、関係行政機関からお話を伺い、策定を進めてまいりました。ご意見いただきました具体的事項に関しましては、次年度予定しております「アクションプラン」策定の中で、関係団体および第一次産業の方々と密に連携を取りながら検討を進めてまいります。</p>

(2) ご意見の概要と村の考え方

番号	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
17	<p>基本方針2観光サービスの品質の向上 3) 朝食・昼食の充実、4) 島の特産品の充実、どちらにも共通するのが、それを担う人材不足が課題となるため、住居等のサポートが必要である。 加工場の必要性は理解できるが、使用されていない既存の加工場等の活用は考えているのか。また、加工を希望する島民に対する聞き取り調査等実施した方が良いのではないか。</p>	<p>本ビジョン、基本方針5「推進体制の強化・担い手づくり」で掲げておりますとおり、就労環境の整備につきましては、現状と課題を共有・議論する場をつくり、生活環境整備の可能性を検討してまいります。 加工場に関しましては、いただいたご意見も参考に、幅広く意見をお聞きしながら、検討を進めてまいります。</p>
18	<p>基本方針1小笠原エコツーリズムの推進 (3) ガイドの育成・能力向上について、ガイドとして立ち立するのには、訓練期間が必要ではないか。2) ガイドの能力向上に「島内外の研究者や専門家、有識者による研究成果や技術等を還元する勉強会や講習の充実を図り、ガイドの知識や技術の向上を目指します」とあるが、エコツーリズムだけではなく、島内の昔からいる方の話や、教育委員会にある資料等で、島の歴史等の知識を習得することも必要ではないか。また、観光の方は島の自然だけではなく、島で生活している様子に興味を持たれることから、観光の方を楽しませるために、ガイドにはいろいろな引き出しが必要だと思う。</p>	<p>ガイドの育成・能力向上に関しましては、いただいたご意見も参考に、幅広い知識を有することのできるよう、検討を進めてまいります。</p>
19	<p>基本方針3観光インフラの整備 (3) 島内交通の充実について、島にEVバスは必要なのか。以下懸念点を記載する。 ①島内の整備工場で整備ができるのか。 ②電力ステーションはどこに作るのか。 島の電力は火力発電である。送電線に乗せて電気ステーションに送る時、電気ステーションからバッテリーに送る時、そして動かす時、その間にそれぞれロスが出ると聞いている。火力発電を使っていたら「脱炭素」にならないのではないか。 ③止まった場合にどうするのか。 ガソリン車と違い、途中で止まった場合に電力ステーションが近くなければ動けない。また、充電している間は走ることができない。 ④バッテリーがレアメタルでできていることに関して、どう考えるか。 レアメタルの産地に住む人たちの環境と健康を害しているのに、それを乗せたバスを走らせて「環境に配慮した観光地・小笠原」になることができるのだろうか。海外では、EV車の発火や爆発等の事故が起こっていると聞く。 EVバスを導入する以前に、バスの時間帯を検討し利用者を増やすことで島の経済も循環すると思われる。</p>	<p>島内交通の充実に関しましては、EVバスの導入も含めた方向性の検討としておりますので、いただいたご意見も参考にさせていただき、利便性の向上と合わせて、議論・検討を進めてまいります。</p>
20	<p>小笠原の観光業に不足しているのは、島の第一次産業から生み出される食材である。宿泊、飲食業において、島の食材が提供されていない。旅の楽しみの一つは、その地域特有の美味しい・珍しい食事である。不足している大きな原因として住宅不足が上げられる。</p>	<p>ご指摘のとおり、地域特有の食材は旅の楽しみの一つであると考えております。宿泊・飲食業と第一次産業団体との連携につきましては、今後、意見交換を重ね、マッチングの仕組み等検討してまいります。</p>
21	<p>世界的に、現在の観光の最先端のうたい文句は、二酸化炭素の排出を削減することである。 プラスチックペットボトル削減のために、給水所の設置およびマイ水筒の携帯を促進する。また、資源ごみの徹底的分別を行う。</p>	<p>いただいたご意見も参考にさせていただき、ゼロカーボンシティの実現等も考慮した環境配慮型経営の手法を検討してまいります。また、資源ごみの分別に関しましては、本ビジョンで取り組む内容の範囲外ではありますが、今後必要に応じて、各関係機関と協議してまいります。</p>
22	<p>大変意欲的で多岐にわたるビジョン、是非、実現に向けて実行していただき、他の世界自然遺産や国立公園のモデルになるような観光地にしていきたい。 環境省が国立公園で進めている、ゼロカーボンパークにも名乗りを上げられるのではないか。</p>	<p>本ビジョンの実現に向けて、観光関連団体のみならず、環境省等関係行政機関とも連携して、検討を進めてまいります。</p>